

令和８年度 第１回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日時	令和８年６月３日（水）１５：００～１６：４５
開催場所	市庁舎 29F 会議室 ※荒天のため金沢動物園の視察は中止し、市庁舎で開催
出席者	（委員）佐渡友陽一委員長、有馬貴之委員、儀賀良之委員、坂東元委員、藤崎晴彦委員、町田怜子委員
開催形態	公開（傍聴者：なし）
議 題	１ 横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会の委員長の選出 ２ 令和７年度第５回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録の確認 ３ 会議の公開について
報 告	１ 事業評価の実施方法について ２ 令和８年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会開催日程 ３ その他
議事	【議題１】 横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会の委員長の選出 ・（事務局）委員長の任期は２年間で、委員の中から互選で選出することとなっている。 （委員から佐渡友委員の推薦） 異議なし 確定 （委員長から藤崎委員を委員長代理に推薦） 異議なし 確定 【議題２】 令和７年度第５回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録の確認 異議なし 確定 【議題３】 会議の公開について ・現在の選定委員会は非公開だが、公開できる部分はあると思うので、原則公開で、審議事項に応じて、事前に次回の会議の公開・非公開部分を決定していけばよいのではないかと。 ・直前に公開に適さないような突発的な案件が起こる場合もあり、前の会議ですべて公開・非公開を判断するのは現実的ではない。 ・安全管理の話などでは、バックヤード部分の動きなども触れることになり、セキュリティ上、一般的に公開する部分ではないが、委員会ではしっかり共有すべき事案などもある。そういうところを真剣に議論できないと、委員会の意味がなくなってしまう。お互いに率直に話せる環境がないと、前向きな議論にならない。 ・公開とすることで、本来すべき議論ができなくなるのは本末転倒。

→（事務局）原則公開を基本とし、毎回、公開の時間と非公開の時間を両方設定し、公開・非公開部分の特定は、直前に委員長と精査させていただくという形はどうか。

異議なし 確定

【報告 1】

事業評価の実施方法について

（事務局から資料 2 について説明）

- ・ 毎年のように、JAZA でも、世界情勢を汲んだ中で、例えばアニマルウェルフェアなどの大きな方針の議論がされている。そういう JAZA や WAZA などの大きな流れの中で出てきているものを取り込んで、次年度の評価に加えていけるような仕組みがあるとよいのではないか。十年間同じ評価項目のままだと「時代に取り残されていても問題ない」ということになってしまう。
 - ・ 指定管理者がスパイラルでどんどん成長していくためにも、評価では、「よくやってるところ」「ここをやるともっと良くなる」といった気づきのきっかけを与えることが大切だと思っている。その部分が評価の時に見えやすくできるとよい。一方で、仕様書に準拠してしっかり行っているのかを確認するのは、もう一つの重要な役割なので、その部分を踏まえながらも、気づきをいかに評価の中に入れ込んでいくのか、ということを考えていけると良い。
 - ・ 動物園の生き物を通じた環境教育的な部分にも、周囲の緑地の活用方法は大事だと感じる。緑地管理は、すぐに結果が出るものばかりではなく、荒れているところの回復、より良い環境の維持など、管理目標も様々なタイプがある。次年度に向けての評価項目の検討では、緑地管理の目標というところも項目に新たに入ると良い。
 - ・ 数値での評価というのは必要なことだが、数字にならない部分、質的な意見をどう指定管理者に還元し、運営に反映されていくかが大事。
- （事務局）現在は、事業評価でいただいたご意見は報告書という形にまとめ、指定管理者に還元する仕組みである。また、毎年度、動物園課職員が実施する当該年度の業務のモニタリングで、より詳細なチェックを実施しており、その中ではいただいたご指摘が運営に反映されているかどうかといったような観点でも確認している。
- ・ モニタリングは仕組みとして非常に重要なところだと思うので、改めて確認するが、資料 3 の日程案を見ると、モニタリングの回数はこれまでの年 2 回から年 1 回にするということか。モニタリングは多くの詳細な項目があり、仕様書通りに業務が行われているかを確認することで、そこから動物園課と指定管理者との対話が行われることに、意義があると考えている。事業評価の報告書のフィードバックとの二段構えになっていると理解している。
- （事務局）これまで上半期と下半期の年 2 回のモニタリングを実施していたが、下半期のモニタリングを実施後、数ヶ月後に当該年度の事業評価を実施することになり、内容がかなり重複しており、また下半期で指摘した点が改善途中の段階であっても評価することとなるため、今年度は、上半期のみのモニタリングという形で実施することとした。
- ・ これまでの事業評価は、事務局側の評価点と委員側の評価点を単純に合算するという仕組み

だった。性質の違うものを無理やり合算している側面があるような気がする。最低限できていることを確認すべき部分と、努力や改善している部分を評価する部分、世界的な流れに対応できているか評価する部分などを一律に一つの点数だけで評価するのは、相当荒っぽいやり方にも感じる。他園の評価方法では、最低限やるべき部分は普通の評価しかつかないが、プラスアルファの評価がつく部分があって、それぞれで S、A、B、C のように多段階の評価を行うところもある。「すべてを点数にして一律に合算しなければならない」という制約をはずして考えてもよいのではと考える。

【報告 2】

令和 8 年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会開催日程

(事務局から資料 3 について説明)

(委員からの意見なし)

【報告 3】

その他

- ・(事務局) 前年度のホッキョクグマの死亡を受けて、こうした事案についてのチェックや検証の機能を強めていきたいと考えている。前回のホッキョクグマの検証では、評価委員会では、獣医師の方がいない中で議論いただいたが、動物園事業は幅広い分野にわたるため、委員だけでは議論しにくい事案も出てくる可能性がある。例えば、事案に応じてオブザーバーという形で、この評価委員会に専門家を加え、幅広く、専門的、科学的な観点でも議論いただけるような仕組みなどを検討している。

動物の移動に関するガイドラインについても、この委員会で意見を伺いながら、作っていききたいと考えている。

また、動物園で起こった事故やヒヤリハットは原則ご報告するようにしているが、改めてご報告・審議いただく基準のようなものについても作成していきたいと考えている。

これらについては、事務局の方で検討し、次回以降の委員会で、進捗状況を踏まえてご報告し、ご意見をいただいて決定していきたいと考えている。

- ・この評価委員会に、委員以外の専門家に必要に応じてオブザーバーのような形で来てもらうのは良いと思う。今回の件に関しては、獣医師よりもむしろ、危機管理の専門家で、特にコミュニケーションマネジメントのような、情報発信について専門的な見地からご意見いただけたらよかったのではないかと考えている。動物園では、失敗を防ぎきることは難しく、起きてしまった失敗をいかにしてコミュニケーションの部分で解決し、受け入れていくのがすごく大切。
- ・情報発信としては、「自分たちはこういう考えでこういうことをしました。だけど結果としてこういうことになってしまいました。その原因はこういうことだと考えています。次回以降こういう改善をしていきます。」という風に、まず自分たちの考えがしっかり出るようにすることが大切。最近、少数の人に対して丁寧に答えようとするあまり、本来であれば一般の人に対して説明するような内容ではない、細かい情報まで出している事例も多いように感

	じる。日本では、ズーラシアのように体重測定や人工呼吸器を装着しての呼吸管理ができる設備を備えているところはとても少ない中で、同様の事象発生時に、同水準やそれ以上の対応を求められると苦しい園もあるのではないかな。 直接体に触ったり、意思を確認できない動物を相手にしているのでリスクは当然背負うことになるが、「こういうことをする必要があつて、自分たちはこういう考えのもとにこういう方法でやりました」という園の考えをきちんと伝えていくことが必要ではないか。発表の文章は、市の意見が入るほど言い訳になっていく気がするので、各園としての基本的な理念をしっかりと尊重した中での対応の仕方、意思決定について、任せる部分を明確にしても良いように感じた。 (事務局から資料4について説明) (委員からの意見なし)
配布資料	資料1 令和7年度第5回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録案 資料2 事業評価の実施方法について 資料3 令和8年度横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会開催日程案 資料4 3つのZoo みらいプロジェクトについて